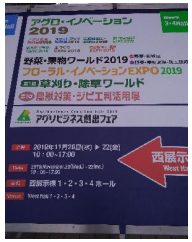
重点分野・テーマ別に集中実施する販売促進の強化等緊急対策事業
【野菜果実ワールド2019 出展　報告書】



出展社　　GLO-berryJapan株式会社
（共同）　　日本青果物輸出促進協議会

開催期間　　2019年11月20日～22日　3日間
開催場所　　東京ビックサイト　西館
ブーステーマ　「安全・安心な青果物輸出の実行
　　～　梱包方法及び包装資材の提案　」

展示品　　・スタッキング機能付き耐水段ボール・・結露対応
　　・対陳列パッケージ各種・・・他国との差別化
　　・軟弱果実輸送・陳列パケージ・・安全性

【　名刺交換　】

枚数	20日	21日	22日	計
国内	40	15	27	82
海外	1		1	2
計	41	15	28	84
説明員数	4	2	2	

二日目以降は、2名体制でしたので、細かな対応が難しかった。

【来場者】
1)　既に青果物輸出を実行している企業
①　他社と差別を図り販売拡大模索
　　展示していた段ボールにて香港向けりんご輸出決定
　　環境面・デザイン性・安全性　検討
②　品質劣化防止の相談
　　輸送中損傷多発し　歩留まりが低下。何とかしたいとの相談あり
③　現行業者より安く仕入れたい

2) これからの輸出拡大についての方策
　自治体や関連団体が多数出展しており、出展者からの相談あり
　後日　改めて　輸出拡大の方策を打合せ実施した。

3)農業大学　学生
　研究テーマ　ネタ調査　ポイントは　輸出。
　かなり多くの学生が　安易に　鮮度保持・ロングライフをテーマにしようとしている
　本当にそこが今後の農業のポイントなのか疑問が大いにあり。

4) 生産者（企業）
　企業体が青果物の生産を開始するも販路として輸出を検討している。
　国内需要喚起より輸出のほうが楽に思われているよう。
　日本産青果物は輸出すれば　即完売、引手あまたと思われている。

5)　他
　物流会社や残留農薬・GAP等認証企業からの売り込みあり
　全国植物検疫協会のパンフ（輸出のお手伝い）は、毎日相当数がPickされた。
　それだけ輸出に関心が高いことがうかがえる。
　但し　僕らブースに詰めている説明員に問いただすまでには至らない。
　（漠然と興味あり）